

留学先大学： The University of Western Australia留学先での所属学部・研究科： Faculty of Arts, Humanities and Social Science留学先での在籍身分： Exchange Undergraduate Student留学期間： 2012 年 2 月～ 2012 年 11 月神戸大学での所属学部・研究科： 国際文化学部学年（出発時）： 3 年本報告書記入日： 2012 年 12 月 11 日**授業について**

留学中に履修した授業について記入してください。

No.	コース名	教授名	時間数 /週	留学先 での単 位数	履修し ている 学生数	予習、復習、テスト等についてアドバイスも含めて教えてください。
1	Education for Global Knowledge Society(EDUC1103)	Lesley Vidovich	3	6	200	授業が毎回分かりやすく組み立てられており、チュートリアルでのディスカッションも「教育」という自らが経験した分野なので参加しやすく、内容も日本では学べないことばかりだったので大変興味深く取り組みが良かった。
2	Communication in Practice(COMM1901)	Michael Champion	2～3	6	400	HumanitiesとSocial Scienceを学ぶ上でcommunication skillを身につける授業。内容は基礎的だが、英語がネイティブでない私にとっては様々な文章スタイル及び効果的に意図を伝える方法などを学べたためになった。
3	English Language and Academic Communication 2 (HUMA1902)	Alison Chevin	3	6	15	Academic research reports and essaysのやり方を学ぶユニット。semesterを通して1つのエッセイを仕上げるのでやり方が身につく。他のユニットのレポートも自信を持って仕上げるようになる。
4	Global Change, Local Responses(ANTH1002)	Debra McDougall	3	6	800	人類学の基礎的なクラス。毎週読む課題が非常に多い。授業も2コマ続きなので最初は集中力を保つのが大変であった。
5						
6						
7						
8						
9						
10						

授業（カリキュラム等）のクラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等

Semesterごとに4unitsを受講します。それぞれのunitにレクチャー（講義）、ワークショップ（大グループでの議論や実技）、チュートリアル（ゼミ）などのクラスがあります。クラスのサイズは様々ですが学年が上がるごとに内容も難しくなり受講生の数も減っていきます。成績評価は出席、レポート、プレゼン、試験などそれぞれのunitによって様々です。授業自体は週12コマですが、他の時間は課題をしたり自習をしたりする時間と考えられています。レポートの評価は非常に細かく重要でどの学生も計画を立てて熱心に取り組んでいます。

費用について

留学期間を通して必要だった費用を記入してください。（概算で結構ですので、円価で記入してください。）

・航空運賃： 16万・住居費：（月額） _____ ×（留学月数） _____ ヶ月 = 150万（寮費一年分食費込）

・食費：（月額） _____ ×（留学月数） _____ ヶ月 = _____

・保険料： 18万・その他： 32万合計： 216万円（留学期間全体の費用）

その他 自由に記入してください。（800字～）

自分の留学体験を一言でまとめると「自分とは何者か？を日々問われるとき」であった。なぜオーストラリアで10ヶ月生活をし、UWAで学ぶ中で異文化を理解するがトップにくるのはではなくて自分に焦点が当たるのだろうか。授業や寮生活、自由時間を通してどのように自分を問われ、その結果、どんな人間に変化したのか述べることにしたい。

まず、基本的なことから始めてみよう。至極、当たり前なことだが日本の外に出て、色々な活動をするのだから、パースにいる自分は外から来た「よそ者」である。そのよそ者を受け入れるとき周りの人はまず私を日本人と認識する。そう、私は日本人である。これほど、自分が日本人ということをはっきりとされたことは今までになく、「じゃあ、日本人ってどんな人たちなのか？」を考える日々であった。また、オーストラリアに近いシンガポールやマレーシアから学位を取りにきたinternational studentsも多くアジア人とも接することが非常に多かった。すると、アジアの中の日本という視点も見えてくる。オーストラリアよりも日本人としての自分はアジアに親近感を覚える。それは、文化的なものなのか。距離的なものなのか。自分はアジアをどう捉えているのか。世界はアジアをどう見ているのか。といった疑問も持てるようにもなった。そのおかげで、今までより大きな枠で自分を見ることができるようになった。世界の中の自分である。

次に、授業の中で発見した自分を紹介したい。私はsecond semesterで教育学のクラスを受講した。タイトルは必ずばりEducation for Global Knowledgeである。グローバル社会の中でどのような教育が求められるか。どのような知識が必要とされているかを学ぶクラスである。その中の、レポート課題の一つに「両親や親戚の人にどんな教育を受けてきたかをインタビューして、自分の受けてきた教育と比較分析しまとめなさい」というものがあった。すると、驚くことに自分が受けてきた教育は親の考え方に非常に影響されていることが分かった。他にも、時代やジェンダー、社会経済的背景も自分の教育に関係があった。つまり、UWAで勉強している自分というのは自分だけで形成されたものではなく、親や先生の考え、日本政府の考えの基で育てられた自分という見方もできるということだ。自分が今持っている当たり前は、他の教育を受けてきたオーストラリア人にとっては全く違った世界である。オーストラリアでは学校の3分の1が私立学校という世界でも私立学校が有利に働く国である。高水準の教育を受けたければ私立学校に通うのがいいとされる。私は公立学校にしか通ったことがなく違うシステム・考え方に驚いたものである。留学のすばらしいところは授業がその国を主軸に展開されるので自然と日本との比較ができることだ。その中で、違ったものの見方を身につけ、自分を再認識することができる。

あまり出会いたくはなかったが、出会ってこそ意味のある自分というものもあった。やはり、最初は英語が聞き取れず、話せずで疲れることが非常に多かった。そして、毎週のリーディング課題が読み終わらない、レポートの書き方が分からない、授業についていけないで私は精神的に追い込まれた。正直、今まであまり追いつめられたことのない平穏な人生を送っていたので私は参ってしまった。切羽詰まったことがないから解決方法や乗り越え方もいまいまいち分からず、自分の弱さが丸出し状態であった。けれども、自分で留学する道を選んで頑張りたいという思いはあったので、色々な人に助けを求めながら、壁を破ってなんとか進める道を探し始めた。留学中、上がり調子のときもあれば、下り調子のときもある。その中でネガティブな自分、思い上がりの自分など好ましくない自分に出会うこともしばしばだ。けれど、それも先生やスタッフ、留学生の友だち、日本の友だちなど幅広く相談してみれば、明るい光が見えてくることばかりであった。マイナスな自分のつきあい方が分かって、そのときはどうしようもなくお先真っ暗だったが、結果的にはよかったと今では思う。

最後に、オーストラリアでしかできないことをして見えてきた自分を綴っておこう。オーストラリアの一番の魅力は大自然である。旅行に行っても、名物は自然、自然、自然。車でパースから10時間北にまっすぐな道を進んで行くと、真つ青なビーチ、貝殻で埋め尽くされた海岸、イルカの見える海辺に出会うことができた。大学や寮の近くも、Kings ParkやSwan Riverなどゆっくりくつろげる空間でいっぱいだ。それが、何もなくて話らないと感じる人もいるだろうが、私は逆にこんな素敵なおとくに暮らせて幸せと思う人種であった。ウィンドサーフィンをしたり、友だちとぶらぶら散歩したり自由時間を楽しめた。自分がどんなことが好きで、どんなところでハッピーでいられるかということも分かった留生活だった。

留学中、「違い」に触れることは数えきれないほどある。その「違い」とぶつかったとき見えてくるのは比較対象にある相手ではなく、自分であった。というのも、自分という基準がなければ「違い」など気づくことすらできないのである。今、日本に帰ってきてまた違った自分とつきあっている。留学前の自分より今の自分が好きになったように思う。それは留学を通して、受け入れる容器が大きくなり、「まあこれくらい何とかなるか」といういい気の抜き方を覚え、チャレンジして成果が出たという自信を持てるようになったからだ。将来は、日本の魅力を世界に発信する仕事してみたい。また、旅行であったり、カメラであったり留学中に見つけた楽しみも引き続き楽しんでいきたい。

後輩の皆さん、いろんな自分と日々つきあっていると思います。留学してみたいという自分ももし居るのであれば、その自分に少し力を貸してあげてください。きっと、もっと新しい自分に出会えると思います。神戸大学のスタッフのみなさん。素敵なお交換プログラムを提供して下さりありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。